

「フラテ」原稿

2011 年

田中教授のもと、当分野が新体制となっではや1年が過ぎようとしています。昨年の12月には京王プラザで教授就任祝賀会を開催しました。多くの皆様にご参加いただき、ありがとうございました。新教授の熱い所信表明を聞いて、教室員全員がこれから身を粉にして教室を盛りたてていくことを誓ったはずですが…)

今年は新しいメンバーとしてアフォナ・ハブテマリウム（修士課程）、佐藤亜未（実験補助員）が加わり、5年生の植松明子と松山圭がMD/PhDコースに進むことになり、院生室を賑やかにしてくれています。特にエリトリアからの国費留学生であるアフォナは私たち常識をいろんな(!?)意味で打ち砕いて、いい刺激を与えてくれています。他にも、教室で行われるセミナーには新田統昭(医学部3年)や、連携研究センターの平田先生などが参加して盛り上げて下さっています。

ここからは、それぞれの教室員からのコメントをご紹介します。

田中 真樹 教授

まずは公式なお知らせから。

当分野は平成24年度より「神経生理学分野」と改名する予定です。現在の分野名は平成10年の大学院重点化の際に「生理学第二講座」から改称したもので、当時は脳、神経といった文字を分野名に使えないという制約があり、当時の教室員で相談して考え出したものです。それから13年の間に、痴呆症は認知症とよばれるようになり、精神科領域の認知行動療法が一般に知られるようになり、分野名から研究教育内容を正しく連想してもらえないことが多くなってきました。教室の体制が代わって少しずつ落ち着いてきたこともあり、この度分野名を変更することを提案し、ご了承いただきました。分野名は変わりますが、研究教育内容は変わらず神経生理学・システム神経科学ですので、今後ともよろし

くお願いいたします。

さて私はと申しますと、あっという間に1年が過ぎてしまいました。講義、講演、会議と書類書きで終始したような気がします。研究の方はたまにサルの手術をする以外は論文を書くばかりで、煮詰まっては教室員の実験を見学しにふらふらと実験室を訪れる毎日です。たまには自分でも手を動かしたいと思い、心理実験で使う入力装置を自作しようと電子パーツとこだわりの工具を密かに集めていましたが、手をつける時間を見つけられず教授室のテーブルに放置したまま2カ月が過ぎ、ついに期限切れで業者に委託することにしました。研究でも工作でも、手を動かして何かが少しずつ形になるのを目の当たりにするのは精神衛生上重要な気がします。何であれ、創造するのは楽しいものです。私生活の方では、小学生の息子たちと釣りに行くのを楽しみにしていますが、こちらも精神衛生上とても良いようです。

教室全体としては、新しい人が少しずつ新しいことに挑戦しつつあり、よい方向に進んでいるように思います。最近ではクルキン助教に心理実験用のプログラムを書いてもらうようになりまして、D2の吉田院生は今春からサルの実験を再開しました。5年生の植松さんと松山君も周囲のサポートのもと、神経活動記録を進めています。アフォナもようやくアパートに引っ越し、少しずつ行動実験のデータも集まってきました。シニアの研究者、院生はなんとかこの一年でホームランとは言わないまでも、二塁打くらいは放ちたいものだとはバリバリ頑張っています。なお、上述の分野名変更のこともあり、近々分野のホームページをリニューアルしようと少しずつ準備を進めています。

山野辺 貴信 助教

学部生の佐藤洋祐さん、築田聡史さん、また、5月からは佐藤亜未さんが研究補助員として研究に協力してもらっています。皆さんに研究を進める上での改善点を時として厳しく指摘してもらえるので、実験が効率的になってきました。日々、実験動物のイカに追われたり、数学者の方とディスカッションが続きますが、今年は大型予算の最終年度に当たる

ため、学会発表や論文執筆をする時間が増えています。そのためか趣味の筋トレやスキーに割く時間が大幅に減っているの、何とかしたいと思っていますところ。

Sergey Kurkin 助教

Originally I am from Rostov-on-Don, Russia. I got my PhD in biophysics in 1983. Since 1995 I joined the Laboratory of Sensorimotor and Cognitive Research at Hokkaido University Medical School. I am working on development of computer-based system to study the neural mechanisms controlling eye movements. This system comprises 3D virtual targets presentation, data acquisition, data analysis and computer modeling.

大前 彰吾 博士研究員 (学振 PD)

北海道に来てから2年半がたちました。相変わらず慣れない雪が積もるのがなるべく遅いように祈っています。私達夫婦の間で次なる進路は留学か！という期待と不安！？が高まっていますので、今は溜まったデータを論文にすることに追われています。とりあえず、今投稿中の論文が通りますように、ということと、今、実験中の研究から分かりやすい結果が出ますように、ということ祈りつつ生活しています。

國松 淳 大学院生 (博士4年, 学振 DC2)

ついに最終学年になってしまいました。みなさんがこれを読んでいるころには、6歳から24年間続けてきた学生生活に幕を閉じているわけです。運動不足も極まって関節などが悲鳴をあげちゃってるこんな私が、世の中の荒波を渡っていけるのでしょうか。というか本当に学位取得はできるのでしょうか。不安でいっぱいですが、なんとかなると信じつつ目の前のことをこなしていきます。廊下などで関節の悲鳴が聞こえたらたぶん私がそばにいます。

松嶋 藻乃 大学院生（博士 2 年, MD/Phd コース）

博士 2 年になりました。毎日、実験三昧でなかなか幸せな生活を続けています。しかし、その弊害(?)として、かなり運動不足になり、体力が落ちている気がします。風邪ウイルスにも 2 連敗中。来年は、実験を続けるためにも、体力づくりに努めようかと思えます。研究成果が形になる日を待ちわびつつ(!)、また日々修行に励みます。

吉田 篤司 大学院生（博士 2 年, 学振 DC1）

行動課題中の慢性動物に薬理的局所活性化/不活化を行い、大脳基底核の機序の解明を行っています。いろいろトラブルもありますが、概ね順調に進んでいるのではないかと思います。将来的にはこれらを発展させ、新たな技術を用いた疾患モデル動物の開発、および治療法の開発を目指しています。出来れば在学中にこれらも終わらせたいと動物ともども朝から頑張っています。

Afona Chernet 大学院生（修士 1 年）

Afona Chernet from Eritrea located on the horn of Africa. I have been working as a High School Teacher and Graduate Assistant at a Medical School in Asmara, Eritrea for the past 7 years after Graduating from Asmara University in 2003. Currently I am enrolled in the Master course.

植松 明子（医学部 5 年, MD/Phd コース）

3 年生のころから出入りさせていただいていたのですが、このたび MD/PhD コースの学生として所属させていただくことになりました。研究室では、実験やセミナーに参加させてもらったりと、いろいろなことを学ばせて頂いています。もっと自分でできることを増やして、おもしろいことを見つけていきたいです。

松山 圭（医学部 5 年, MD/Phd コース）

以前から抄読会などに参加しておりましたが、MD/PhD コースに進学し、今年から本格的に実験を始めることになりました。まだ誰も分かっていない事柄の真実を追求していく研究者の生活にあこがれていますが、実際はまだまだ他の研究員の方にいろいろと教えていただいている段階です。これからも勉強して、よい研究ができるように頑張っていきたいと思えます。よろしくお願いします。

佐藤 洋祐（医学部 5 年）

築田 聡史（工学部情報エレクトロニクス系 3 年生）

工学部後期の授業が始まり、研究室配属が間近に迫っています。色々な研究室を見学に回っていますが、実際どこに行けばいいのか非常に迷うというのが本当のところでは。ここでの研究室選びによって、今後の人生が大きく変わるかもしれませんが、目指すものを変えるような大胆な選択もアリなのかな、と思っています。大きな決断にも後ろ向きにならずに行きたいです。

新田 統昭（医学部 3 年）

京大大学院に在籍しサル前頭葉の情報変換機構を研究していた縁と、編入学試験対策で鈍った前頭葉の“リハビリ”を兼ねてこちらのセミナーに顔を出していたところ、田中教授のご厚意でスペースを提供して頂けることになり、以来お世話になっています。今は山野辺先生が捌いた美味しいイカを食べて処理することくらいしか出来ていませんが、京大時代の論文が一段落したら何かお手伝い出来れば…と思っています。ちょっと変わった論文を読むのが好きなので、開店休業中の金曜セミナーを盛り上げてみたいという野望(?)も密かに抱いています。

佐藤 亜未 実験補助員

5月から、技術補助員として主に山野辺先生の実験のお手伝いをしています。業務のひとつに、実験に使うイカと、その餌となる金魚の世話がありますが、おかげさまでイカの生態とイカ料理にはぐんと詳しくなりました。最近、まだ小さな金魚にエサを細かくして与るのが日課。その成長を見守っています（イカに食べられちゃうのだけど）。毎日の仕事を楽しみながら、皆さんの研究のお手伝いが出来たらと思っています。

鈴木 真理 技術補助員

毎日、教室の明るい雰囲気の中で楽しく仕事をしています。プライベートでは、10年ぶりに趣味の茶道を再開し、また最近子どもにせがまれてハムスターを飼い始めました。はじめは気乗りしなかったのですが今では深夜に動き回るハム太にすっかり癒されています。

以上、新しいメンバーも、ずっといるメンバーも、次に羽ばたこうとしているメンバーも、みなそれぞれに目標を持って充実した日々を過ごしております。来年もここで良い報告ができるよう、全員で邁進していきます！

（文責：國松）